

●鉄筋コンクリート構造シンポジウム●

# 鉄筋コンクリート部材における性能評価の現状と将来

— (その1) —

<主催> 日本建築学会 構造委員会 鉄筋コンクリート構造運営委員会  
鉄筋コンクリート部材性能小委員会

鉄筋コンクリート構造運営委員会では、靱性指針（1999年）、性能評価指針（2004年）、RC規準改定（2010年）、保有水平耐力規準（2015年予定）と、過去15年ほどの期間に多くの規準・指針類を刊行している。これらの規基・指針類の内容は、新しい研究成果を反映して改善された項目が多々あるが、1981年の新耐震設計法の施行前後からあまり内容が変更されていない項目も含まれている。一方、1990年前後には、規基・指針類に盛り込むことができなかつた研究成果も含めて「建築耐震設計における保有耐力と変形性能」などの最新の研究状況を説明する解説書が刊行され、設計者や研究者が、規準・指針類の位置づけを確認することができた。こうした解説書の刊行を目指して、現状報告と今後のRC造建物の耐震設計の方向性を討論するための討論会を開催する。

日時：2015年1月30日（金） 13:00～17:00

場所：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター 国際会議室（田町キャンパス）

（東京都港区芝浦3-3-6 JR田町駅芝浦口から右方向の階段をおりてすぐ）

内容（各講演の題目等は変更されることがあります）

司会：西村康志郎（北海道大学）

1. 主旨説明 13:00～13:10

：河野 進（東京工業大学）

2. RC部材実験データベースの構築と解析 13:10～14:45

2.1 全体概要

：田才 晃（横浜国立大学）

2.2 梁および柱

：石川裕次（竹中工務店）

2.3 変断面梁

：渡邊秀和（東京工業大学）

2.4 変断面柱

：磯 雅人（福井大学）

2.5 壁

：坂下雅信（京都大学）

2.6 柱梁接合部

：楠原文雄（東京大学）

2.7 まとめ

：楠 浩一（東京大学）

質問時間

司会：高森直樹（フジタ）

3. RC構造に関する最近の動向 14:55～15:55

3.1 保有水平耐力計算規準の紹介

：和泉信之（千葉大学）

3.2 部材種別について

：石川裕次（竹中工務店）

3.3 柱梁接合部の設計法について

：塩原 等（東京大学）

3.4 壁の設計法について

：加藤大介（新潟大学）

質問時間

司会：日比野陽（広島大学）

4. 現在の問題点 16:05～16:40

4.1 梁・柱部材の性能評価

：日比野陽（広島大学）

4.2 壁部材の性能評価

：松井智哉（豊橋技術科学大学）

4.3 柱梁接合部の性能評価

：楠原文雄（東京大学）

4.4 劣化および損傷評価

：高橋典之（東北大学）

4.5 構造設計に関わる諸問題

：伊藤 央（久米設計）

質問時間

5. まとめ 16:40～16:50

：北山和宏（首都大学東京）

記録：谷昌典（建築研究所）・坂下雅信（京都大学）

定員：120名（事前申し込み優先、当日の空きは、会場先着順）

参加費：会員4,000円、会員外5,000円、学生2,000円 \*資料代2,000円含む

申込方法：[日本建築学会 HP「催し物・公募」](#)よりお申し込みください。

問合せ：事務局研究事業グループ 中村 Tel.03-3456-2057